

経済のゆがみ、社会のゆがみを正していく時代

につぼんの未来を考える三日間

2016/10/28 「社会・経済」

1. はじめに
 - 不幸ではないのに、幸せ感も薄い時代
 - 他方ですすむ格差社会、バラバラになった個人の孤立

2. 資本主義の何が問題なのか
 - この50年間に発生した「ポジションを取る」だけの人生
 - ポジションを取り損ねたときの悲惨、
 - ポジション取りの時代がもたらした無意識の保守主義
 - 誰もが自分のポジションを守ろうとし、全体的な結び合いが壊れていく

3. 私たちはどこで間違えたのか
 - 近代社会＝人間たちの生きる世界の諸要素＝自然、経済、労働、暮らし、文化、土着的な信仰などが一体性を失い、それぞれの要素がバラバラになった
 - そのなかの経済という要素が暴走し、他の要素を破壊していくようになった
 - その結果、本当の生きる世界を見いだせない時代が生まれ、自分の存在基盤を現状におけるポジション取りに求める他ないようになっていった

4. 一体性を取り戻す、経済を社会、関係性のなかに埋め戻す
 - 生きる世界の諸要素の結びなおしが求められている時代
 - ゆえに発生したソーシャル・ビジネス、地方への移動、都市と農山村の関係の再創造、自然との関係、自然信仰との関係、・・・
 - カール・ポランニー、シルビオ・ゲゼル、玉野井芳郎、レヴィ・ストロースなどへの関心

5. まとめに代えて
 - 現実的な問題と根源的な問題を同時に問い直す必要性について